

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

## ②施設・事業所情報

名称：太陽の子鶴ヶ峰保育園	種別：保育所	
代表者氏名：阿部 真貴	定員（利用人数）： 60名（58名）	
所在地： 〒241-0005 横浜市旭区白根1-14-7		
TEL：045-959-1570	ホームページ： <a href="https://www.kidslife-nursery.com/">https://www.kidslife-nursery.com/</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2014年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：HITOWAキッズライフ株式会社		
職員数	常勤職員： 13名 非常勤職員 7名	
専門職員	看護師 1名 栄養士 1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室6部屋	園庭・駐車場

## ③理念・基本方針

## 保育理念

～のびのび、すくすく、にこにこ～

子どもたち一人ひとりがたくさんの“大好き”に出会えるよう、こころとからだをすこやかに育てゆきます。

## 保育方針

安心できる人間関係の中で、一人ひとりの違いを認めながら生活します。

整った保育環境の中で、仲間と喜びのある生活をし、自らルールを発見し社会性を育みます。

様々な経験や人との関わりの中で、自ら好きなものを発見し、健全な心身の発達を図ります。

いろいろな違いを体験する中で、広い視野をもった子どもを育てます。

## ④施設・事業所の特徴的な取組

- ・つながり保育（子どもとつながる・保護者とつながる・地域とつながる・スタッフ同士つながる）
- ・ふぁんぱりん（英語）
- ・リズムモン（ダンス）
- ・絵本
- ・食育活動
- ・おそうじチャレンジ

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月21日（契約日）～ 2022年2月10日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（ 2016年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

**保育の質の向上を図りつつ、新たな時代に合わせた保育に取り組んでいる**

園では、現在、保育の質の一層の向上に向けた取り組みを実践している。各役職や専門職によって目標を設定したシートに園独自の取り組みや自分自身の目標を記入し、保育の内容についてチェックしていく体制が整備されている。さらに、職員はスタッフハンドブックの中身を更衣室に掲示し意識して仕事に取り組んでいる。これらの取り組みを前提に、年度末にはスタッフ間で園の自己評価を行ない、評価、反省や次年度の取り組みを保護者にも開示している。また、現在行っている行事は、保育士や子どもにとって成果をみせることが負担になっているが、成果を見せる行事から楽しんで取り組む行事へとシフトチェンジを図っている。これらの取り組みを通して徐々に職員の意識が高まり、新たな時代に合わせた保育を模索している。

**子どもの姿や声に目を向け、笑顔で過ごしてもらえることを大切にしている**

子どもの姿に目を向け、よく観察しながら保育を行うことを大切にしており、子どもの声を聴き、興味関心を取り入れた遊びを展開できるように取り組んでいる。研修では、子ども主体の保育について学んだり、マルチリトメントの理解を深めることにも力を入れており、子どもにわかりやすい表現や言葉遣いで保育にあたるように努めている。子どもたちが楽しく笑顔で過ごしてもらえることが一番であるという共通認識を持ち実践につなげている。

**子どもが食に興味をもてるよう食育活動に力を入れている**

給食は本社献立を参考に、保育士と栄養士が相談し旬の物を取り入れた手の込んだメニューとなっており、残食は殆どなく、好き嫌いも少ないことが報告されている。園庭ではキュウリ、パプリカ、ナス、枝豆、ヘチマなど多くの栽培活動を行い、マナー指導、クッキング、なども取り入れ栄養士が子どもと触れ合う機会も設けている。絵本の料理を献立に取り入れたり、世界、郷土料理ではその地域の特性なども写真で伝え、文化などにも触れられるようにするなど、子どもが食に興味をもてるような様々な取り組みが行われている。

◇改善を求められる点

**保護者の意見・ニーズを取り入れた事業計画・保育計画の策定が望まれる**

事業計画は、全体的な計画を各クラスの年間計画に反映し、月間計画、週案、日案と作成し保護者にも提示しているが、園長は園からの一方的な計画となっているのではないかと感じている。この状況を改善していきたいと考え、保護者と共に子どもの育ちを支えていくにはどのような事から取り組んで行けばよいか模索している。現在は、保護者との面談記録簿を記載し、相談や意見をしっかりと検討したり、保護者アンケートから保護者のニーズも取り入れ次年度の行事計画を見直したりなど工夫し、さらに相談しやすく、もしくは希望された時に臨時面談を行えるように個室を設けたりしている。また、委員会やクラス懇談会では、保護者の意見を保護者間で言い合えるように、園はファシリテーターとしての役割に徹して保護者主体の会合としている。以上のように様々な取り組みを実践していることを前提に、さらに試行錯誤しながら保護者の意見・考えを踏まえつつ各種の計画を策定されることを期待したい。

配慮が必要な子どもの保育にあたっては長期的な計画につなげることを目指している  
特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、個別支援計画を作成し個別対応と集団  
の中での学び、両方の重要性を踏まえた保育計画を構成している。また、区臨床心理士  
の訪問や研修を定期的に受講し、子どもの捉え方や関わり方を学び共通理解のもと支援  
にあたっていけるように努めている。しかしながら一斉保育では対応することが難しく  
なってきたことを課題としており、年度ごとの振り返りを次年度に取り込んでいく  
長期的な計画へと繋げているところであり、インクルーシブな保育を目指している。ま  
た、地域のニーズに応え、積極的に障害を持った子どもの受け入れる体制作りも目指し  
ている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の受審により、コロナ渦での保育や行事の在り方について、あらためてスタッフ間  
で共通認識が持てました。  
また、課題や評価が見えてきたことにより、園が目指す保育の計画を策定していく上で  
参考としていきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり